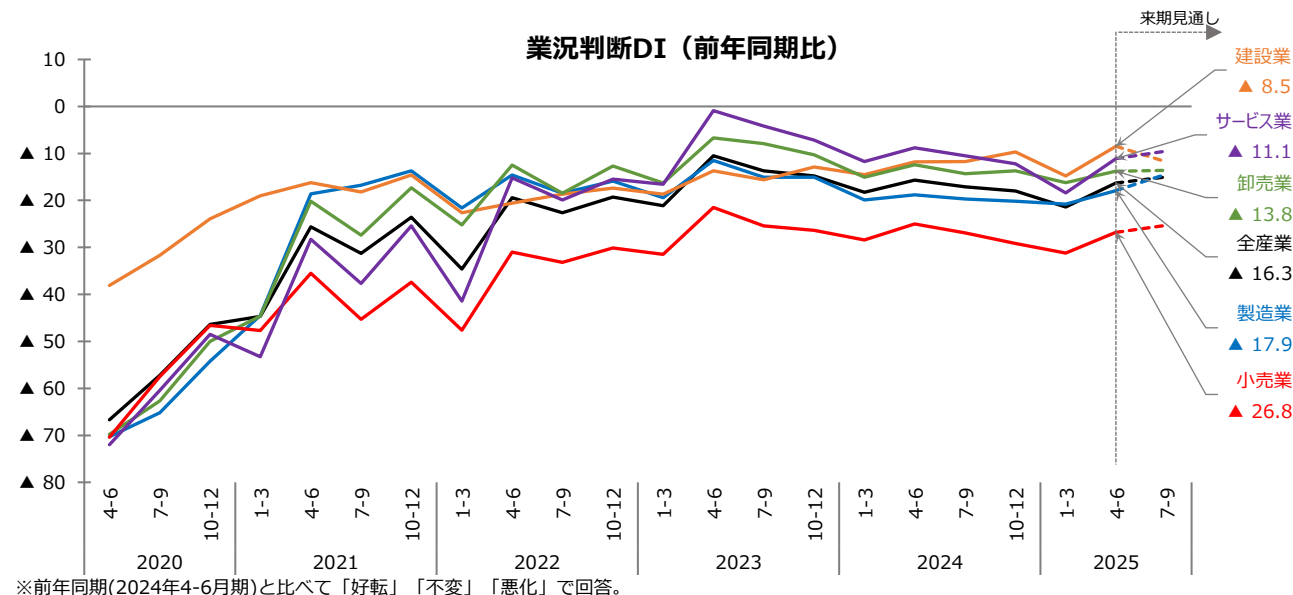


第180回中小企業景況調査（2025年4－6月期）のポイント

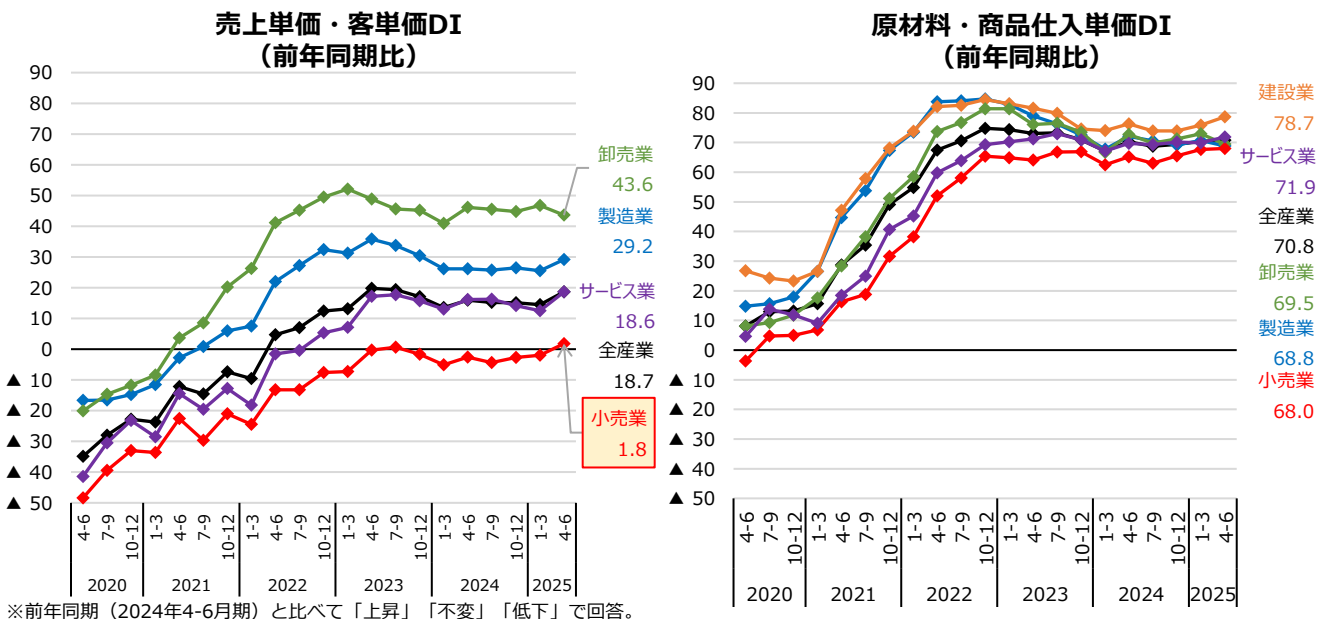
1. 業況判断DIは、4期ぶりに上昇

全産業の「業況判断DI（前年同期比）」は、前期（2025年1-3月期）から5.1ポイント増（▲16.3）と4期ぶりに上昇。産業別では、サービス業で7.3ポイント増（▲11.1）、建設業で6.3ポイント増（▲8.5）、小売業で4.4ポイント増（▲26.8）、製造業で2.9ポイント増（▲17.9）、卸売業で2.4ポイント増（▲13.8）と上昇している。



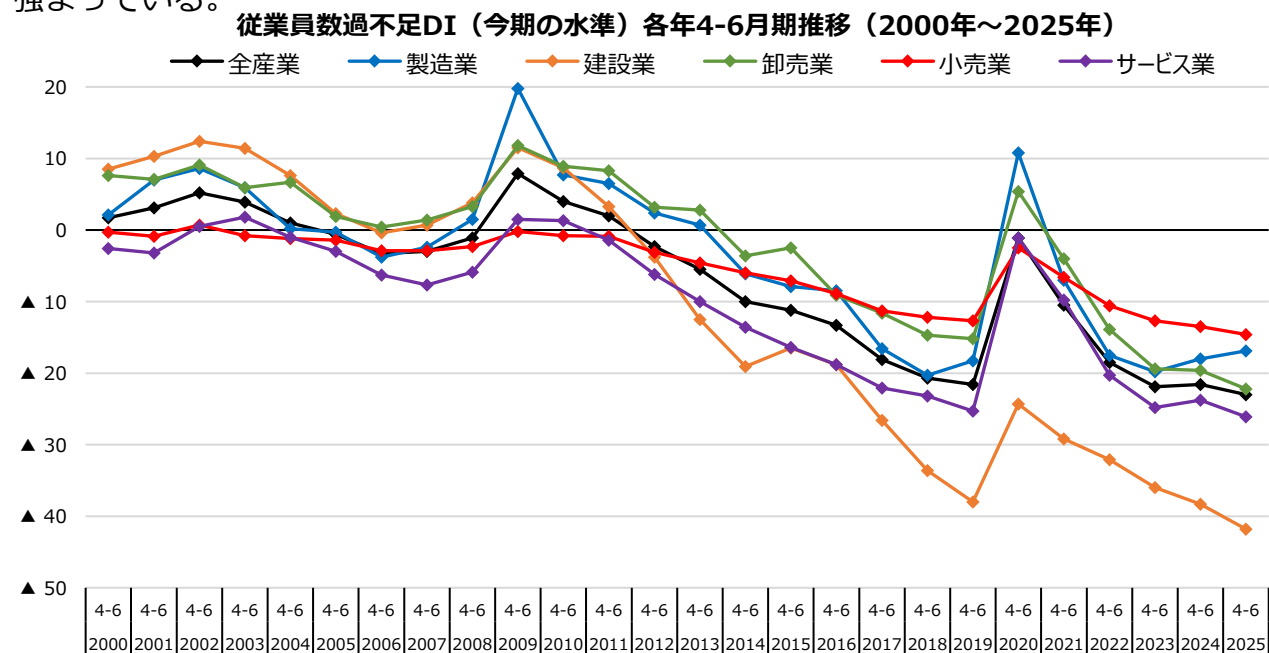
2. 小売業で売上単価・客単価DIがプラス圏に浮上

「売上単価・客単価DI（前年同期比）」は、小売業が7期ぶりにプラス圏へ再浮上し、物価高が進んでいることがうかがえる。他方、「原材料・商品仕入単価DI（前年同期比）」は、「売上単価・客単価DI（前年同期比）」に比べ高水準となっており、いずれの産業も高止まりの状態が続いている。



3. 人手不足が一層強まる

2000年以降における4-6月期の「従業員数過不足DI（今期の水準）」の推移をみると、製造業を除くいずれの産業も過去の最低値（マイナス値）を更新しており、人手不足感が強まっている。



4. 中小企業のコメント

◆**原材料費高騰**に伴い、**売価（新造船価）も上昇**していることから以前に比べ、**採算を確保**できるようになった。新卒採用は相変わらず困難、中途採用者が定期的に採用できていない。熟練技術者は減少。[船舶製造・修理業]

◆今期は期首から**売上は好調**であるが**継続的に受注できるかは不透明**。車業界は電化、関税等の難題はあるが、異業種を開拓し新規案件も決まりつつある。[非金属用金型・同部分品・附属品製造業]

◆**世界情勢が不安定**なため**輸出関連の案件がストップ**している。**取引先の分散**により**黒字**だが、一社依存傾向なので改善をしなければならない。[機械工具製造業（粉末や金業を除く）]

◆**人材不足が大きな課題**。求人を出しても**集まらない**状況で、**個々の負担増、社員の高齢化**により受注から完工まで長期化が想定される。長期化すると**物価が上昇**する可能性が高く**利益の確保も課題**になっている。[大工工事業]

◆業績は順調に推移しているが、**米国関税の影響や物価の高騰・金利の動向等の不確定要素が多い**。[電気機械器具卸売業]

◆**提供サービスの差別化**を図り、お客様の満足度を上げている。モーニングサービスの提供を前年よりスタートしており、**売上高に貢献**している。[料理品小売業]

◆**インバウンド客の増加**により、地方都市においても宿泊施設に関して客室稼働率が高止まりしている状況が続いているため、**高い収益性を確保**できている。だが、それに伴う**人員の確保に課題**がある状況が続いている。[ビルメンテナンス業]

◆仕入価格や光熱費の上昇に対して全ての原価、販管費を見直し、**販売体制、価格を見直し**した。今のところ客離れもなく、**利益率も向上**している。[お好み焼き・焼きそば・たこ焼店]

【調査要領】
1.調査時点 2025年6月1日時点
2.調査対象 中小企業基本法に定義する全国の中小企業（調査対象企業数18,841、有効回答企業数17,899、有効回答率95.0%）
3.自由回答数 4,537件（上記の他、「中小企業景況調査報告書」p.11、「中小企業景況調査資料編」pp.79-80に掲載）
※中小企業景況調査の自由回答（フリーコメント）
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入することから、各企業が抱える課題が表れている。